

院長からのメッセージ

10月後半から秋らしい涼しさも感じられるようになりました。霧島市の山間部では11月には紅葉とともに暖房が必要になりますね。霧島大窪の自宅でも冬の準備を進めています、本広報誌名である「暖」を求める季節になりました。

日本全体ではコロナワクチンの接種率が70%を超えて、感染者数も急減しました。正確な理由は示しませんが、医療者の多くは「やはりワクチン効果だね」と感じています。12歳未満への接種と、12歳以上の3回目まで進めば、70%の壁を乗り越えられない先進諸外国とは違って第6波以降の再流行は小さなもののできる可能性があります。手洗い、マスク、密を避けるなどの基本的な習慣を継続しながら、日常を取り戻すことが必要ですね。

先進国の中で対策が遅れたと言われていた日本ですが、いざワクチンがスタートすると世界一の接種率を達成し、死亡者数も世界的に見れば極めて低い水準です。国民の保健に対する理解と、決まったことを遵守する規律の正しさが表れています。当医療センターも鹿児島県の県央に住まいの皆様方と協力しながら、医療・保健における重要な役割を担っていきたく思います。



図1.わたしは心不全？(心不全の症状)

- 労作時息切れ・呼吸困難の関連症状** 体の要求する血液を送り出すことができなくなって起こる症状
- 『階段・坂道を昇るとき2、3か月前より息切れしやすくなった』
 - 『2、3か月前は大丈夫であったのに休まないとい長い距離を歩けなくなった』
 - 『寝ていたら胸が苦しくなった。座っているほうが楽だった。』
- むくみとの関連症状** 身体に血液が滞ってしまう「うっ滞」によって起こる症状
- 『1か月に2~3kg 体重が増えた』
 - 『最近食欲がなく体重が減った』
 - 『最近足がむくむようになった』

動機や息切れ、年のせいではないかも！？
まずはかかりつけ医に早めの受診をお勧めします

市民公開教育講座 今回は「心不全」です

心不全とは心臓のポンプの機能が落ちて、息切れやむくみが起こり(図1)、だんだん悪くなり命を縮める病気です。超高齢化社会で年々増加しており(図2)、4年生存率55.8%と、がんより低く、がん以上に怖い病気です。心不全には様々な病気が関連し、特に高血圧が多く、高血圧や糖尿病、脂質異常症、肥満といった生活習慣病があれば、すでに心不全の「ステージA」です(図2,4)。予防には、よい生活習慣(運動・肥満予防、禁煙、減塩・節酒など)を身につけることが重要です(日本心臓財団から)当院には4名の循環器内科の常勤医がおり、心不全に対する薬物療法、心筋梗塞や狭心症に対する血管内カテーテル治療、不整脈に対するペースメーカー埋込など積極的に行っております。

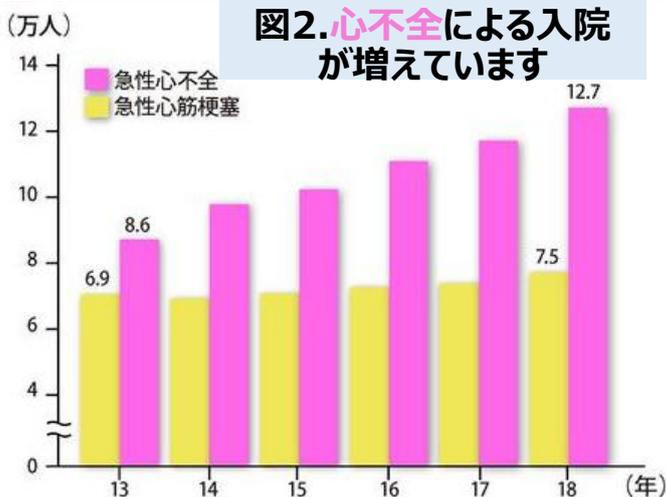


図4.心不全は4回予防できます

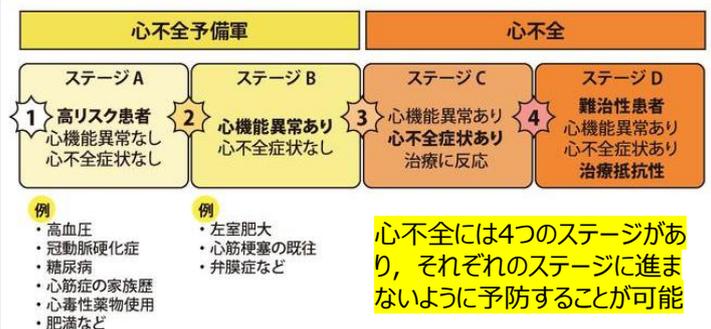
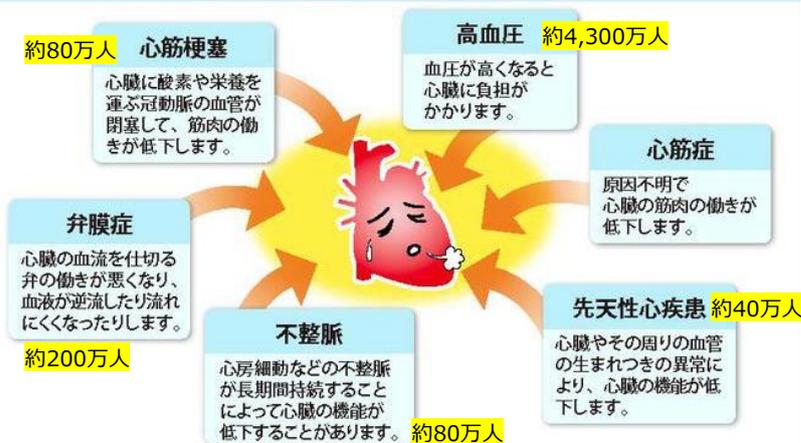


図3.色々な心臓の病気が心不全の原因になります



トピックスー循環器疾患と緩和ケア

心不全が進み治療が難しくなった場合、苦痛を与える医療処置を行うのではなく、苦痛を緩和する医療処置(緩和ケア)を行うことも念頭に置き、病気の予後と病状を考慮したうえで、患者の価値観に沿った、患者のための最善の医療・ケアを行う事が重要です。緩和ケアは治療と同時に進行することができ、事前に終末期の医療について患者と家族間・医療者間で話し合っておくことも大切です。当院では治療困難な状況となった場合、医師と多職種によるカンファレンスで緩和ケアについて検討しています。



診療科紹介:今回は「循環器内科」

循環器内科は、全身に血液を循環させている心臓と血管の病気をみる診療科です。薬物療法だけでなく血管を通す細い管（カテーテル）や血管に留置する金属の筒（ステント）などを使った血管内手術や、心臓ペースメーカーの装着手術なども行います。日本人の死因でがんに次いで多い心筋梗塞や狭心症の治療はもちろん、超高齢化に伴い増加している心不全の治療にも力を入れています。当院では循環器病専門医3名と専攻医1名が力を合わせ24時間体制で緊急治療に当たっています。

2020年度当院実績

| | |
|---------------|-----|
| 心臓カテーテル検査 | 347 |
| 経皮的冠動脈形成術 | 129 |
| 緊急心カテ | 72 |
| ペースメーカー植込術 | 46 |
| IABP(圧補助循環装置) | 19 |
| 緊急一次ペーシング | 17 |



県内屈指の検査・治療数！

瞬時に変化する循環管理や呼吸管理は大変ですが、4人とも循環器内科が大好きです。これからも患者さんの為に全力投球します。

心リハ指導士とは(2000年制度開始)



心臓疾患に対する運動療法だけでなく食事療法や服薬管理等も含めた自己管理を支援する“包括的リハビリ”を普及させる役割があります。心大血管リハビリテーション料施設基準の人員要件となっており(医師1名+専従の看護師又は理学療法士2名)、診療報酬にも貢献している日本心臓リハビリテーション学会認定資格です。



当院では上記3名。県内63名。受験要件は厳しく、合格率も60-70%と難関です。

診療部門紹介 臨床検査室



臨床検査技師とは、血液や尿、心電図や脳波などを測定し、外見からは分からない病気をさまざまな機械を駆使して発見する検査のプロと言われております。当院の臨床検査室には臨床検査技師6名、事務1名が在籍しており、腹部/心/血管エコー、心電図、肺機能、脳波、心肺負荷試験など生理機能検査を主に行っています。『迅速かつ丁寧に正確な検査を行う』を目標に日々邁進しています。院内感染対策チームの一員としても活動しています。患者様の気持ちに寄り添い、患者様が病院を信頼して治療を進めていける一助になれるようスタッフ一同、日々努力してまいります。

職員募集中

(2021年11月1日現在)

看護師、看護助手各2-3名、薬剤師1名、医療クラーク2-3名を募集中です。看護助手や医療クラークは未経験者でも可です。資格取得やキャリアアップの支援制度も充実しており、常勤採用もあります。

| 募集日程 | 日時 | 場所 | 連絡先 |
|----------|----------------|--------|---------------------|
| 看護師・看護助手 | 11/13(土) 8:30~ | 当院 研修棟 | 病院代表→総務課 四元又は看護部 竹田 |

詳しくは病院HPをご覧ください。本田事務長、濱崎事務次長、または坂元総務課課長補佐は随時対応いたします。

☎ 0995-42-1171, FAX 0995-42-2158